

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物	■ 2 面	日本軍「慰安婦」問題
	■ 3 面	世界の動きから
	■ 4、5 面	沖縄県民との連帯・支援ツアー
	■ 6 面	組織拡大のとりくみ
	■ 7 面	列島 AALA
■ 8 面	私と AALA	

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2016 年 2 月 1 日 No.667



人間の尊厳と誇りを守るため

辺野古の

美しい海に米軍新基地は造らせない



米軍新基地建設予定地の大浦湾、右後方にはキャンプシュワブの弾薬庫がある

日本 AALA は 1 月 7 日から 10 日まで「沖縄県民との連帯・支援ツアー」を実施し、24 人が参加しました。写真右端の東恩納琢磨名護市会議員が反対のたたかいと現状を説明しました。

(ツアーの詳細は 4、5 面)

憲法 9 条を壊す戦争法の発動を許さず 戦争法廃止の国民連合を

1 月 4 日、通常国会が開会しました。議員会館前集会には 3800 人が参加し、「戦争法廃止！安倍内閣退陣！野党は共闘！」のコールがこだましました。民主党、共産党、社民党、維新の党の代表が激励のあいさつをし、参加者は 4 月末までに「2000 万統一署名」をやり遂げる決意を固めました。



北朝鮮の「水爆実験」を厳しく糾弾し、核兵器廃絶に向けた運動を強化する声明

1 月 6 日、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）は「水爆実験」をおこなったと発表しました。これは核兵器廃絶を願い、北東アジアの平和と安定を求める人々の声を踏みにじる暴挙であり、北朝鮮の核開発の放棄を求めた国連安保理決議だけでなく、北朝鮮自身が約束した 6 カ国協議の共同声明、日朝平壤宣言に背くものです。

非核・非同盟の世界と東アジアの平和共同体の実現を求めて運動を進めている日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会は、度重なる北朝鮮の暴挙を厳しく糾弾します。6 カ国協議の早期再開による北朝鮮の非核化を要求

します。

そのためにも重要なことは、自国の核については正当化を主張する核保有国や核抑止論にくみする国々が態度を改めて、一刻も早く核兵器廃絶に向けた「核兵器全面禁止条約」の交渉を開始することです。日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会は、このことを強く求め、核兵器廃絶のための運動を一層強めていく決意を表明します。

2016 年 1 月 7 日

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

「慰安婦」制度は 日本が朝鮮に負わせた“くびき”

日本共産党元参議院議員
日本 AALA 理事

吉川 春子

2015年12月28日、日韓政府は「慰安婦」問題に関して「合意」した。岸田外相は「慰安婦問題は軍の関与のもとに多数の女性を深く傷つけた問題であり、日本政府は責任を痛感している」として、従来の「道義的責任」との言葉を使用していない。安倍首相は「日本の首相としてあまたの苦痛を体験し、心身にわたり癒しがたい傷を負ったすべての方々に対し、心からおわびと反省の気持ちを表明する」とした。河野官房長官談話の見直しを主張したこともある安倍首相が、この立場を堅持することを表明した。

そして、韓国政府が元「慰安婦」支援を目的としておこなう財団設立に対しては、政府の予算で資金10億円を一括拠出することとした。この財団は日韓政府が協力して元「慰安婦」の名誉と尊厳の回復、心の傷を癒すための事業をおこなう。「アジア女性基金」(1995～2007年)の反省から全額予算からの出費とした。以上これまでの政府の対応よりは前進した内容である。「慰安婦」問題を積極的に報道してきた日本の新聞「朝日」「毎日」「東京」は12月29日、一斉に「合意」を評価・歓迎する社説を掲げた。

被害者と支援団体が 受け入れない理由

12月28日夜のNHKニュースでは、被害女性のもとに説明に訪れた韓国政府高官に対して、私もよく知っている方が激しい怒りをぶつけていた。韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)は、日韓合意を「韓国の外交は屈辱的、国民を



ソウル市の日本大使館前の少女像と吉川さん
(2012年)

裏切った外交的談合」だと厳しく批判している(「日韓外相会談合意に対する『挺対協』の立場)。女性たちが経験した過酷な体験に対して日本政府はどこまで本気で謝罪しているのか、中途半端なまま合意した韓国政府への強い怒りを感じた。

かつて私は初代挺対協会長ユン・ジョンオク元梨花女子大教授と対談した。彼女は16歳の女学生とき、クラスメイトが「慰安婦」にさせられ戦後も祖国に帰ってこなかった痛切な体験から「慰安婦」問題に生涯をかけている。曰く「ハルモニたちは『慰安婦』の経験が傷になって故郷へも帰れない、家の恥になるからと言って母親からも追いつ返された。置き去りにされていまも中国に(韓国女性が)何人残っているかわからない。原住民と結婚した女性をやっと訪ねあてると数週間前に亡くなっていた…胸の痛い事を話せばきりが無い。『慰安婦』制度は日本が朝鮮に負わせた、突き詰めた“くびき”だった。歴史的にも最も重く苦しい“くびき”を負ったのが女性で、なかでも少女と若い女性たちだった」「アジア女性基金はあのよう

な犯罪を犯しながらお金を渡すことで免罪符を受け取る行為…」と。(吉川春子著『アジアの花たちへ』)

日韓政府合意を 意味あるものにするために

被害者たちのこのように深い怒りに、日本の謝罪はどのようにしたら届くのか。私はかつて安倍首相に予算委員会で「被害者の女性たちはなにを望んでいるとお考えか」と質問した。

安倍首相曰く「常々申し上げているように、『慰安婦』の方々が辛酸をなめられたわけであり、ご同情申し上げます。当時そういう状況に置かれたことについてお詫び申しあげている…ここ(予算委員会)で内閣総理大臣としておわび申し上げているわけです」と。私は「被害者に一度お会いいただきたい。総理が直接『慰安婦』にお目にかけて謝罪していただきたい」と追及した。しかし予算委員長が「吉川君の質問時間が過ぎているので総理を指名いたしません」と仕切り私の質問を打ち切ってしまった(参議院会議録2007年3月26日)。

いまこそ安倍首相は被害者に直

接謝罪の言葉を述べるべきだ。かつて西ドイツ首相がポーランドでナチスの犠牲者の碑の前で膝まづいて謝罪し、大きな感動を与えた。また国会の役割も大きい。野党3党は参議院に2000年から「慰安婦問題解決法案」を8回提出、審議もした。与党がすべて廃案にして以来なにもしていない。北朝鮮

の水爆実験に対してはすぐに抗議決議を可決した。「慰安婦」問題でも謝罪決議を上げるべきである。この問題を政府にだけ任せておいてはならない。

また、日本大使館前の少女像の移設を云々する前に、「慰安婦」の碑を日本国内で建立すべきではないか。館山市には「噫 従軍慰安

婦の碑」がある。過酷な体験をさせ、女性の尊厳を踏みにじった歴史を忘れないためのモニュメントは必要である。日本は意識して侵略戦争の痕跡を消してきた。しかし、天皇のために戦死した兵士を顕彰する靖国神社しかないというのは寂しすぎる。



東アジアの平和秩序へ“中心的役割” ASEAN 共同体が発足

昨年11月マレーシアの首都クアラルンプールでひらかれた第27回東南アジア諸国連合(ASEAN)首脳会議は、同月22日、2015年12月31日をもってASEAN共同体を公式に設立するとしてクアラルンプール宣言など一連の文書を採択しました。

このうちASEAN共同体については①「ASEAN2025へともに前進するクアラルンプール宣言」②今後10年間の展望を示した「ASEAN共同体ビジョン2025」③共同体の3つの柱のとりぐみの課題を整理した「ASEAN政治・安全保障共同体ブループリント2025」④「ASEAN経済共同体ブループリント2025」⑤「ASEAN社会・文化共同体ブループリント2025」の5つの文書を承認しています。

第一の柱の「政治・安全保障共同体」は、これまでの成果にたって加盟10カ国の政治的協力と団結をいっそう強化するとともに、それをテコにして域外との関係、特に東アジアの平和秩序の構築に、より積極的な役割を果たしていくとしているのが一つの特徴です。

「ASEAN2025へともに前進するクアラルンプール宣言」では、「急速に変化する戦略環境」のもとで、ASEANが「地域の秩序形成で中心的、かつ主要な運転者の

役割を果たしていくためには、能動的な対応が求められている」と強調。「ブループリント2025」では、「ASEANの団結と結束、中心性的役割を強化して、地域秩序をASEAN主導のメカニズムで打ち立て形成していく」(序論)と述べています。

そのうえで「地域アーキテクチャー(秩序)の形成にあたってASEANが果たす中心的役割を強化する」(C.1.1)、「高官会議でのより焦点を絞った協議で戦略方向をさだめる」(C1.1.1)、「地域秩序について共通のビジョンを練り上げる」(1.1.2)と強調。米ロが初参加して18カ国で開催された2011年の第7回東アジア首脳会議(EAS)が採択した「互恵関係の原則についての宣言(バリ宣言)」を確実に実行し、東南アジア友好協力条約(TAC)の上に法的拘束力のある措置をより広い地域に広げていく(1.1.3)としています。

紛争の話し合い解決と武力不行使を義務つけたTAC(1976年)は、ASEAN諸国と東アジア首脳会議(EAS)参加の18カ国や欧州連合(EU)など31カ国・地域が参加していますが、域外国同士の間では適用されていません。この点について発表された議長声明は、「TACが地域の国家関係を律する中核的な行動規範であり地

域の平和と安定の基礎になっていることを再確認した。TACに含まれた目的と諸原則をさらに促進することを決意するとともに、TAC受け入れの申請については改定ガイドラインにそってさらに考慮していくことで合意した」と説明しています。

(注) ASEAN共同体は、進行中のプロセス。2015年までのブループリントで決められた147の行動項目の達成率は87%(2015年4月時点)で、課題が引き継がれている。緊張する南シナ海問題では、採択された議長声明が「軍事化」への懸念と平和的な手段での解決を訴えたものの、中国の人工島建設や「軍事利用」を抑える具体的な措置が打ち出されなかった。また6億人の人口とGDP2.5兆ドルの市場誕生といったASEAN経済共同体に主たる関心がむけられ傾向があった。だが政治・安保共同体や社会・文化共同体の発足の意味は軽視されてはならない。各国が主権の一部を移譲する欧州連合条約で結束をすすめたEUが、軍事同盟を維持したまま難民やテロ問題で動揺している。これにたいしてASEANは各国が主権を維持し非同盟や内政不干渉の原則を堅持したままの協力和平和構築だ。そのASEANが東アジア全体を平和の地域にする構想を進めているのだ。

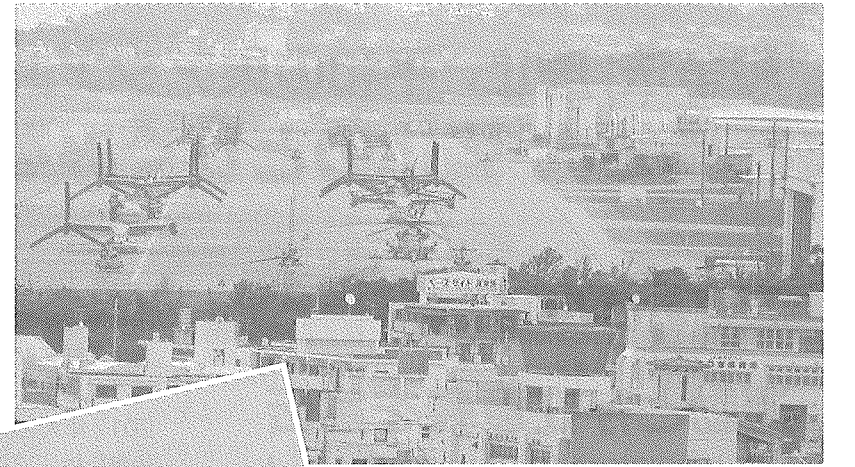
1/7~10 日本AALA 沖縄県民との連帯・支援ツアー

米軍基地を視察 新基地建設許さないたたかいを激励

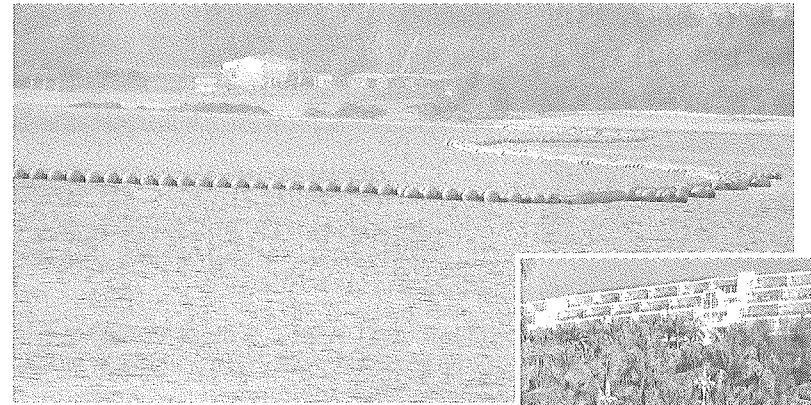
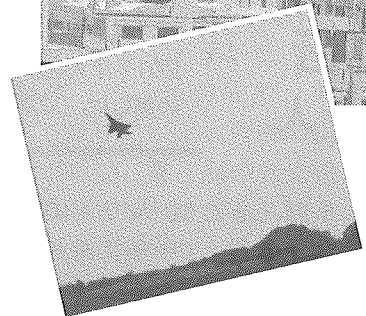
グラスポートから見たサンゴ礁と海。「辺野古の美しい海に新米軍基地はいらない」。誰もが確信しました。

1月8日が代執行訴訟の第2回公判だったため、キャンプシュワブゲート前は抗議の人たちは少なめでしたが、たたかう会の代表に檄布とカンパを渡しました。

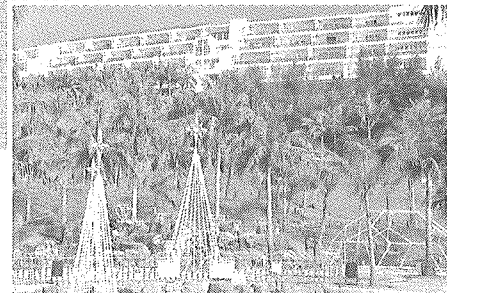
オール沖縄でたたかう宜野湾市長選挙。沖縄安保廃棄統一連の瀬長和男事務局長（故瀬長亀次郎衆議院議員の孫）から激戦の状況報告を受け、日本AALAの24人はそれぞれがハンドマイク宣伝、電話かけ、直接対話の活動をしました。市民の反応はよく、逆に激励されることも。24日の投票に向けた活動がつづきます。



▲嘉数高台から見た宜野湾市の真ん中にある普天間基地には危険なオスプレイが常駐
▲北朝鮮の核実験報道後で、タッチアンドゴーを頻りに繰り返す嘉手納基地のジェット戦闘機。騒音がすごい



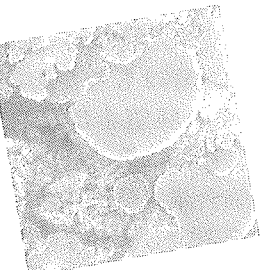
▲辺野古米軍新基地埋め立て予定海面の赤いブイ。警戒船が抗議船を常時監視している
▶昨年末から辺野古に派遣されている警視庁機動隊が宿泊する高級リゾートホテル



キャンプシュワブゲート前でたたかう地元の方に檄布とカンパを渡し、激励。当日は代執行訴訟の第2回公判の日



▶大浦湾のサンゴ礁をグラスポートから見る。ここを埋め立てて基地にするなど到底許されぬと確信
▲辺野古漁港とキャンプシュワブを隔てるフェンスの前で撮影、フェンスの向こう側は巨大な米軍新基地の予定



グラスポートから見える大浦湾のサンゴ礁

ヘリパッド建設反対のたたかいを激励

キャンプシュワブゲート前で「新基地建設反対！」とコールする日本AALAツアー参加者



東村高江でオスプレイ用のヘリパッド建設反対でたたかう地元の方に檄布とカンパを渡し、激励



初日の夕食交流会で田港朝昭 沖縄AALA理事長が歓迎のあいさつ

不屈館館長の内村千尋さんは瀬長亀次郎さんの粘り強いたたかいを説明し、活動を紹介

宜野湾市長選挙

勝利のため連帯活動に参加



▲沖縄統一連の瀬長和男事務局長に檄布とカンパを渡し、シムラ市長実現の活動を激励
▲ハンドマイク宣伝、電話で支持を訴える活動に参加

「戦争法」廃止、「平和の東アジア共同体」運動と結合し 組織拡大・強化のとりくみを全力で進めよう

茨城 AALA

運動と存在意義を宣伝 7月の理事会目標にあと10人

茨城 AALA は、①「平和の共同体」づくりを県内諸団体の共通の理念にする②一点共闘から共同運動、統一戦へ発展させる③会員拡大のとりくみなどを掲げ、県内の諸団体や県民に働きかけをしています。

日本 AALA の定期大会後も、11月に日本 AALA 定期大会報告集会の開催、茨城大学関係者、農民連、革新懇、日中、日ベト、原水協、日本共産党の議員などと懇談をし、さらに1月16日の田中靖宏国際部長の「新春学習講演会」のチラシを大量に配布し、拡大を呼びかけています。

①と②について、茨城 AALA の林俊光理事長は「この2年余りの活動を通して、県内の平和・民主諸団体のなかにこの方針が



茨城 AALA
林 俊光理事長

浸透しつつある。茨城 AALA の存在もかなり知られてきた。うれしいことは、各団体の催しを計画する際、茨城 AALA の日程が考慮されること」と語っています。諸団体に働きかけ「5・24 国際シンポジウム」では、目標の2倍の22人の参加者を組織しました。

③の会員拡大では、ここ数年10人ぐらいずつ増やしてきましたが、日本 AALA の機関紙を活用するなど存在意義を広めて、昨年は1年間で20人の新会員を迎

えました。あと10人で「4000人に見合う会員」（今年7月の理事会までの目標）に到達します。さらに、今春の第13回茨城 AALA

総会までに5000人目標（120人）に到達し、次期全国大会までに10000人の目標（240人）をめざそうとがんばっています。

東アジアを知る旅 第2弾・韓国

南基正先生による講演と史跡案内 「板門店」や日本軍「慰安婦」施設訪問など

日本 AALA は、2014年に ASEAN を知るツアーをおこない、「知りたかったアセアン」を出版しました。大きな反響を呼び「平和・協力・繁栄の東アジア共同体」の大切さと展望を学びました。それは国連大学での「5・24 国際シンポジウム」の成功へと発展しました。

今回は歴史と激動が詰まった韓

国ツアーを、日本 AALA 企画、富士国際旅行社企画・実施で行います。植民地時代のことや同じ民族が分断された状態にある韓国をしっかりと見地から見聞し、日韓の平和友好はもちろん、東アジア共同体の展望を学びましょう。なお、秋には第3弾として東アジア首脳会議議長国のラオスなどの訪問を予定しています。

■日時 4月11日～14日（3泊4日）

■費用 約12万円 ■募集人数 25～30人

■おもな内容

①南基正先生（ソウル大学・国際シンポジウムパネリスト）とともに

11日 特別講演「東アジア国際政治の中の日韓関係」

14日 南先生の案内で特別史跡めぐり

碑殿⇒圓丘壇⇒徳寿宮⇒聖公会聖堂⇒貞洞教会⇒救世軍本館⇒培材学堂⇒梨花学堂⇒重明殿⇒ロシア公使館⇒京橋荘⇒西池⇒独立門⇒西大門歴史公園 *徒歩での見学

②ツアー独自企画

4月12日、13日

38度線の板門店見学、日本軍「慰安婦」関連施設などを訪問、青瓦台、景福宮、安重根義士記念館、南大門市場など



東京
**新たな抵抗運動と
 占領の終結**



12月10日パレスチナ国駐日常駐総代表部大使のワリード・アリ・シヤム氏を招いてひらかれた講演会と踊りの夕べは、会場いっぱいの105人が参加し、大成功に終わりました。

講演の前におこなわれた6人のダンサーによるエネルギッシュなパレスチナの踊りで、会場は沸き上がりました。最後に参加者もいっしょにステップを踏み、和やかな時間となりました。

大使の講演は「新たな抵抗運動と占領の終結 パレスチナの現状と国家承認への展望を語る」と題しておこなわれました。大使は、パレスチナの土地が強力な軍事力を持ったイスラエルによって占領(入植地拡大)されつづけていることについて、映像の地図を示しながら説明。毎日のようにパレスチナ人とイスラエル軍の治安部隊が衝突し、多くのパレスチナ人が拘束され、市民が殺害されることがつづき、15年間で1951人の子どもが犠牲になっていることや、パレスチナ人の居住区が高さ8メートルもの高い塀で囲まれ、豊かな土地は入植地としてイスラエル人が占領していること、国連などがイス

福井

**日中韓文化交流のつどいと
 ベトナム旅行**

県内在住者によるAALA地域の文化交流は2014年に最初にとりくみ、100人が参加し成功しました。第2回は東アジア共同体づくりを考え、韓国民団県支部、日中友好協会福井支部と実行委員会を組織しとりくみました。

つどいは3部構成で、第1部は歌と踊り。民団女性部の踊りが圧巻でした。第2部の食文化体験では手づくりのチジミ、餃子、おむすびが好評でした。第3部のリレートークでは、中国研修生の訴え、民団の日韓交流のとりくみ、福井県AALAの東アジア共同体づくりの提起などで相互理解が進みました。参加者は70人でしたが、中国、韓国との民間レベルの交流は深まりました。

今年の海外旅行は11月19日から24日で、ベトナムへ行きました。例年より参加申し込みが多く、早い段階で24人になりました。若

いころにベトナム戦争に関心を持ち、いまベトナムがどうなっているか知りたいという人が多かったからだと思います。

企画の目玉の一つが国際シンポジウムでのシンポジストを務めたフィンさんとの交流で、この場には山形AALAの紹介でハノイ在住の横山教授とその知人の杉本さん(元広島市教員)が同席してくれ、ベトナムのいまを深く知ることができました。もう一つは、ホーチミン市で枯葉剤後遺症のグエン・ドクさんが務める平和村訪問と交流でした。ドクさんの義足を送った女性会員は感激の交流でした。

当面の課題は、未会員の旅行参加者に入会してもらうことです。

(事務局長 金森洋司)



ラエルを非難する決議を出しているにもかかわらず、昨年の軍事攻撃では子どもや女性を含む2000人以上が殺害され、10万人以上が難民になっていることなどを明らかにしました。

大使は「イスラエルの狂気を止めさせなければならない。私たちはイスラエルと平等な関係をもって共存したいと考えている。日本のみなさんはパレスチナを国家として承認するよう、日本政府に働きかけてほしい」と訴えました。

(事務局長 松井幸博)

宮城

**戦後70年と
 北東アジア平和協力構想**

12月5日、日本共産党副委員長で国際委員会責任者の緒方靖夫さんを講師に「戦後70年と北東アジア平和協力構想」と題して記

念講演がおこなわれました。

村口至理事長は、市民レベルでの平和北東アジアの平和のとりくみ、韓国留学生との交流や総領事を迎えてのとりくみなどを紹介しました。

緒方さんは、世界の経済関係(GDPのシェア)が大きく変わり、2011年に新興国が先進国を追い越し大きな変化がおきていることや、中国経済は購買力平価では米国を追い越し、経済関係でも中国の比重が大きくなっていることを、資料を示して解説しました。このとき大きな国の側に求められる特別な注意として、「平等互惠の原則が掲げられていても、小さな国の側には、容易に言い出せないことがあり得ることに留意して、大きな国の側が相手側の立場、感情を忖度し、ふるまうことが要望されている」と述べました。



さらに緒方さんは、ASEANの経験に学ぶことは大事であり、韓国の「北東アジア平和協力構想」も日本共産党の「北東アジア平和協力構想」も共通していて、これらを推進していきたいと語り、安倍政治のアキレス腱は歴史修正主義、憲法破壊、社会的連帯の破壊であると指摘。人間の尊厳をかけたたたかいをしようと訴えました。(事務局長 小林立雄)

静岡

キューバと米の 国交回復問題で講演会

静岡県 AALA では、学習会を通じて組織化を強める方針をすすめています。11月14日、新藤通

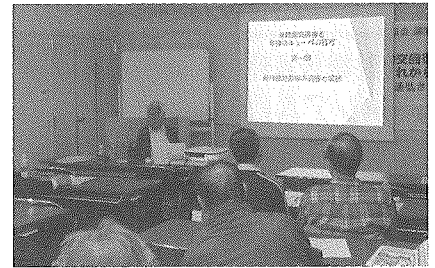
弘さんをお迎えして、「キューバと米の国交回復と今後の行方」と題して講演会を開催しました。この時期になぜアメリカが対キューバ制裁を解除して国交回復に踏み切ったのか、両国間の政治、軍事、経済、文化交流など今後の行方に興味を寄せられ、新しい顔ぶれを含め20人が耳を傾けました。

新藤さんは、アメリカがこれまでキューバを破壊すべく数々の攻撃をくり返してきたが、旧ソ連の援助もあったとは言え、カストロの指導のもと、これらをすべて跳ねのけてきたこと、中南米の民主化の進展によりアメリカはついにキューバの独立を認めざるをえなくなったことを詳細な資料をもとに語りました。観光と農業に頼る

キューバの産業は、鉱工業生産ではこれからという状況であり、国内の経済は当分困難が強いられるとの話や、先進と言われる医学の分野でも、高度医療機器などの導入は十分でないなど、意外な印象も受けました。

明るく楽天的な国民性など、キューバを訪れた方からの話を聞くにつけ、困難は必ず克服されるという思いでした。

(理事長 寺尾 昭)



コーヒー“マラゴジベ”の価格の改定をお願い

2016年2月1日注文から、オスパルコーヒー「ニカラグア・マラゴジベ」の価格を、1袋200g 1250円から1320円に改定させていただきます。詳細は日本 AALA ホームページをご覧ください。



ホームページが拓く私の航路

私が埼玉 AALA に加入したのは、2011年12月頃からのので、まだ4年しか経っていません。

いまから17年前、高校数学の教員であった私は、「高校数学の窓」というホームページをひらき、誰でも気軽に質問できるサイトにしようかとがんばってしま

た。そのサイトづくりから、ホームページの基礎を学び、手書きでHTMLをつくることや、日本中の100人に近い数学関係者（ニックネームのため本人との交流はなし）と日夜問題を解き合うという楽しさを享受していたわけです。それはそれで楽しかったのですが、定年退職となったとき、これでよいのかと自問しました。そこで、「退職後はその特技を活かして、民主団体のホームページ関連のボランティアをする」と決意したわけです。

さっそく、2009年の8月頃「さいたま教育文化研究所」のホームページの依頼があり、その要望に応えながら、いろいろな工夫をし

ていきました。

2011年に、野本久夫さん（日本 AALA 新事務局長）に、埼玉 AALA のホームページを再開したいと相談があったときには、喜んで引き受けた次第です。それと同時に加入し、中国東北部やサハリンやフィリピンの平和の旅に参加しました。学べば学ぶほど AALA の存在の大きさに気づかされ、世界情勢を見る力も得られるようになったと思っています。分からないときは、AALA の新聞やホームページを見て学ぶことができるのは素晴らしいことです。それゆえ、充実して正確なホームページを作成することが大事であると実感しています。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4 階

電話：03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>

FAX：03 (3357) 6255 E-mail：info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円（送料62円）